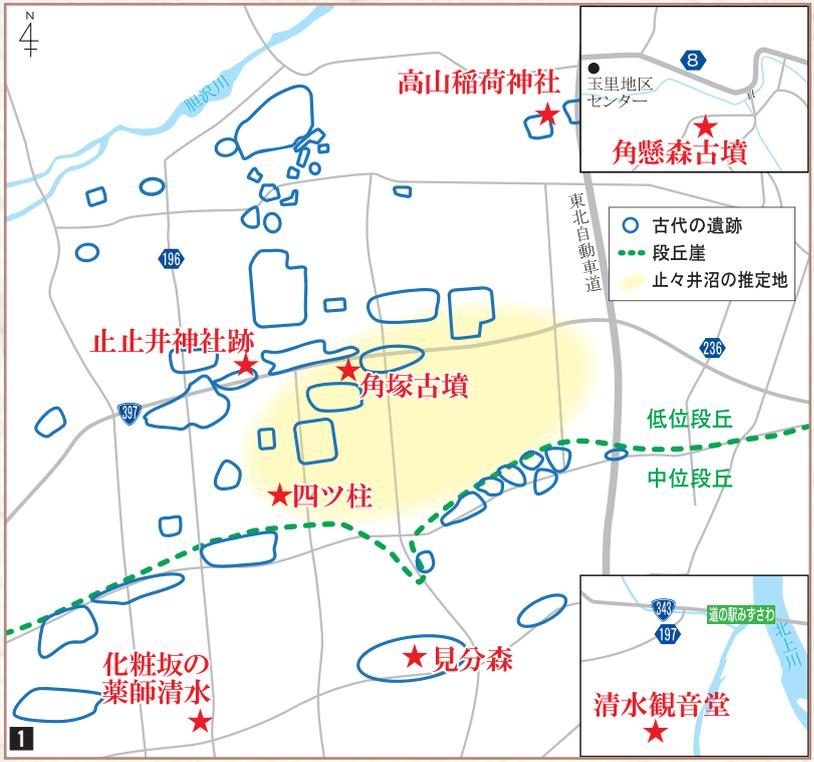




**1**伝説関連地地図 **2**胆沢町民劇場（現奥州胆沢劇場）で最高観客数を記録した第4回「小夜姫物語」（写真提供：同実行委員会） **3**松浦小夜姫を祭る清水観音堂（水沢姉体町）。別当宅にはさよ姫が使ったといわれる化粧道具などが保存されている **4**胆沢から離れた地にも伝説は残る。角懸森古墳（江刺玉里）。折れた大蛇の角がこの森に飛んできたことから、角懸（欠）森とよばれるようになったと伝わる。角掛村の村名の由来とも



# 奥州遺産

——ときを越え  
受け継がれるもの——  
第101回

## さよ姫伝説を旅する（後）

※第100回から続きます

さよ姫伝説の関連地を地図上に落とし、さらに古代の人々の生活跡である遺跡を重ねていくと、いずれも扇状地の微高地上に位置していることが分かる。この地図から扇状地の低位段丘には、人の住めない沼地や湿地が広がっていたと推測できる。大蛇が住まいたという伝説の止々井沼も、こうした沼地や湿地のひとつ、あるいは集合体だったのかもしれない。

沼地を改良し、さらに、茂井羅堰に集約される用排水施設を整え、現在に見られるような水田地帯の原形が出来上がった時期と、さよ姫伝説が完成した時期は、ともに江戸時代ごろと考えられている。さよ姫の伝説が語る蛇退治は、湿地を克服し水田化していった、この地の米作りの歴史を現代に伝えているともいえるのだろう。

ときを越えて人々の心をつかむさよ姫の物語。今もなお市内の至る所にその足跡は残る。（完）

広告

●広告の問い合わせは、(株)東広社 (☎ 0197 64 1523)